



猿長だよ

NO.39. R6. 2. 26 (Mon)

今回は、お雛様について、ちょびり解説させて頂きました！

先日のInstagramでも紹介させて頂きましたが...

2月19日(月)「雨来」の日に、志都呂幼稚園で毎年恒例、

心組さんが雛人形を飾りました。

「雨来」とは、二十四節気の2番目。春の訪れと共に、雪が雨へと変わり田畑を潤す頃とされています。

雛人形の由来は、人の病や汚れを紙人形に託して、その人形を川に流して厄払いをした事から、雪が溶け、

水が豊かになるこの時期「雨来」の日に雛人形を飾ると、良縁に恵まれるといわれているそうです。という事で、当志都呂幼稚園でも心組さんが毎年飾っているんです。

ご存知でしたか？

1段目

そもそもお雛様は天皇陛下と皇后陛下の婚礼を模し、子どもの健康と安寧を願って飾りますね。お内裏様・お雛様を飾る位置が違ふんですよ。関東風(一般的な)の飾り方では、お雛様は向かって右、関西風はその逆で向かって左なんです。東京など東日本では天皇陛下と同じ右優位の並びですが、関西では古式の左優位を残しているわけです。もともと日本では南を向いて座った時に、日の出る方角(東・左側)が上座(優位)とされていたそうです。

2段目

三人官女

お雛様のお世話係で、両側の官女はお酒を注ぐ“金钿子”を持ち、中央の官女は盃を持っています。実は中央の官女は既婚者で、お歯黒という昔の方は既婚者は歯を黒く塗っていたんですよ。

3段目

五人囃子

結婚式を引き立てる役割で、能楽を奏でています。向かって左から、

4段目

太鼓・大鼓(おおづつみ)・小鼓(こづつみ)・笛・謡(うたい) と名の通り、声(こゑ)を担当です。

5段目

随臣(ずいじん)

右大臣と左大臣で、天皇皇后が主に外出する時にお守りする役で、今で言うSPの様なものです。

6段目

仕丁

掃除係で、ほうき・ちりとり・熊手を持っています。仕丁は笑い泣き・怒りの表情をしていて、これはお雛様が表情(心)豊かに育つようにとの願いが込められているんです。

7段目

たんすや食器・お化粧道具です。嫁いだあと、生活に困らないよう、身の周りの生活道具一式です。

8段目

御輿入れ道具です。牛車は天皇が乗り、お駕籠(おかご)はお雛様が乗ります。

下に引く 赤い布(緋毛氈ひうせん)は、赤には魔除け効果があり、よく一般の結婚式やお祝事でも使われていますね。

桜・橘(たちばな)を飾るのは...

桜と橘には、古来から「魔除け」「邪気払い」の力があるとされ、特に橘は冬に花を咲かせる力強さから、「不老長寿」の願いも込められているそうです。

菱餅(ひしもち)

赤・白・緑を重ねた和菓子で、赤は「魔を払い」、白は「清浄・清らかに」、緑は「健康」に育つようにという願いで、一色ずつにしっかり願いが込められていますね。

一人ひとりの人形、そして一つひとつのお道具に込められた様々な生活を
紡いできた人々の思い。それを丁寧に語り伝える先生達、子ども達も
それをしっかり理解すべく、いかにも神妙な表情で耳を傾けてくれていま
した。

ちよびり緊張気味の子ども達が、かわいくて、愛おしくて!

かくして、子ども達は一人ひとりの飾りを手にし、厳かな雰囲気の中、
7段飾りを完成させました。その光景を目にし、子ども達と共に
過ごせたこの一年に感謝し、又翌一年の子ども達・保護者様 健康・
安全・安寧をいっから願わすにはなりませんでした。

今やマンション住まいが多いなどの住宅事情もあり、7段飾りの
お雛様は、お祭り見かけなくなりました。だからこそ、昔人の子を
慈しむ願いに思いを馳せ、失われつつある日本の文化を、子ども
達と共に、健やかに語り継いでいけたら... と思っています。